会　議　録

【事業番号３　小規模企業者新分野展開モデル事業費】

１　会議名　　平成 29 年度第１回市民行政評価委員会

２　日　時　　平成 29 年 9 月 27 日（水）午後３時 25 分～３時 55 分

３　場　所　　議会第３委員会室

４　出席者

（１）市民行政評価委員会委員

岡田委員長、村田委員、林委員、山崎委員、寺田委員、
大家委員、喜成委員、西山委員、藤田委員、安田委員

（２）事業担当課（ものづくり産業支援課）

石山課長、竹岡主査

（３）事　務　局（行政経営課）

津田課長、松本課長補佐、島崎係長、古谷主査

５　審議内容

評 価 委 員　：　対象事業のテーマが H27 と H28 で異なるが、毎年、テーマが変わるのか。（事前質問）

事業担当課　：　小規模企業者でも成長分野への展開が可能であることを広く啓発することが目的であり、テーマは環境、医療、福祉といった成長分野が主となる。H27 は事業開始初年度であり、成長分野の中でもさらにテーマを絞ったが、H28 からは成長分野全般に広げている。

評 価 委 員　：　事業実施要領「１．目的」中の「成功事例を提示するモデル事業を委託する・・」とはどのようなことか。（事前質問）

事業担当課　：　小規模企業者は資金面、アイディア面、人材面から下請けでの加工に終始する事業者が多く、自社開発へのハードルが高い。その中で、ハードルは高いが将来性の見込める成長分野への新規展開が小規模企業者でも可能であることを広く啓発するため、取り掛かりから開発、販路を見据えたところまでを公開の成果報告会で広く発表するモデル事業である。なお、当事業は成果報告会での報告までを市の委託事業としている。

評 価 委 員　：　この事業の目的は、企業の新規事業の開発を直接支援することか、成功事例の成果を他の企業に提示することか。（事前質問）

事業担当課　：　小規模企業者の開発支援の側面もあるが、基本的には成功事例を他の企業に広く提示するものである。

評 価 委 員 ： 事業の実績指標は、「成果報告会の参加者数」のみで妥当か。（事前質問）

事業担当課 ： 小規模企業者でも成長分野への展開が可能であることを広く啓発することが目的であり、公開の成果報告会の参加者が多いほど啓発が進むとの視点から当該指標を定めている。

評 価 委 員 ： 他の類似制度と比較できるものを参照したい。（事前質問）

事業担当課 ： 別表１を参照。

評 価 委 員 ： 過去の採択事業の詳細とその成果が分かるものを参照したい。（事前質問）

事業担当課 ： 別表２を参照。

評 価 委 員 ： 事業の採択に際し、どういう風にお金が使われて、かつ本当に新しいモデルになるのかということを見極める力が必要ではないか。どのように審査しているか。

事業担当課 ： 作ろうとするものの範囲も広いし、そこに求められる成果レベルも全然違うことから、審査で善し悪しを見極めていくのは非常に難しい。試行錯誤しているが、審査会はそれぞれの専門分野の方々、例えば知的財産に関する仕事をされている方とか、実際にものづくりを研究されている大学の先生とか、課として産学連携に取り組んでいるがそのアドバイスをお願いしている元大学の先生といった方々にメンバーになっていただいている。

評 価 委 員 ： 昨年度の採択は１件だけだったが、今年度は仮に２件あったとしたら、その都度専門家を集めて審査するのか。

事業担当課 ： 事前にどんな分野の申請が出るか分からないので、スポット的に専門の方にご意見をお伺いするなどで補っていきたい。

評 価 委 員 ： 採択事業のフォローアップはどうやっているか。

事業担当課 ： 昨年度の例で説明すると、ここで開発が終わりということでなく、引き続き改良を重ねながら大学と連携して更に研究を進め、学会への発表などにも取り組んでいる。

評 価 委 員 ： それは企業としてやっているのか、市としてやっているのか。

事業担当課 ： 市の委託契約としては完了しているが、せっかく市で進めた事業なので報告を受けながらやっている。

評 価 委 員 ： どうも製品開発を委託するというのが理解できない。委託ということは成果品を市に納入するのか。製品開発を単年度で簡単にできるのか。それだと中途半端ではないかと思う。つまり、新製品開発・改良推進事業と統合して補助事業とし、その中から委託で発表させたほうが良いのではないか。

事業担当課　：　製品開発も委託しており、成果品は成果発表会で報告をしていただくことで成果を受け取ったとしている。金沢市ものづくり戦略を 2015 年に策定し、その中で販路開拓や新製品開発を大きな柱と位置づけている。その戦略策定の際、作業部会での議論で「補助金はあるが、小規模事業者はなかなか採択されない。使いやすい制度が何か出来ないか。」という意見があり、この事業を創設したという経緯がある。もう一つ、補助金ではなく委託とした理由が成果発表会にある。成果発表会は「自分達もこういうことが出来るんじゃないか」という気づきを生み出したいということであるが、それを実現しようとする時に、補助金だと補助率２分の 1 とかになる。委託事業だと上限はあるがその範囲内で 100％市が委託をするという形になるから、小規模事業者でも安心して取り組むことができる。そこで自分達の技術を磨いて作ったものについては、補助金を使うなり販路開拓の制度を利用するなり、どんどん展開してもらいたいとの思いなので、その点をご理解いただきたい。

評 価 委 員　：　成果発表会には各企業の代表者が参加するのか。それに対するフィードバックは何か得られているか。

事業担当課　：　この時は、沢山の事業者に参加いただき、顔ぶれも代表者や開発部門の社員など、さまざまだ。フィードバックについては、成果発表会の感想は取っていないので、次回以降、ご指摘を参考にして取り組んでいきたい。

評 価 委 員　：　参加者は分かっているのか。

事業担当課　：　参加した企業は分かっている。

評 価 委 員　：　今年度の予算は 210 万円であるが、目処があるのか。

事業担当課　：　予算はこれまでも２件で 200 万円という形で計上している。事前に申請の見込みがあるということではない。

評 価 委 員　：　昨年度、一昨年度ともに１件の採択だが、ニーズはあるのか。

事業担当課　：　委託した企業に対してはヒアリングをして、使い勝手などの話は聞かせてもらっている。各企業が単独でゼロから製品を創り出すのは難しい。大学が持っているシーズ（大学が持つ有用な研究成果・技術等）と企業をマッチングする事業も実施しているので、そこからこのモデル事業を結びつく企業を生み出していければとの思いでやっている。

評 価 委 員　：　終期設定という二次評価だが、意図はなにか。

事　業　局　：　この事業はモデル事業なので、モデルが一定程度集まれば一旦終

了して、その時点で事業を検証して必要な見直しを講じてもらえればいいという考えである。

評 価 委 員 ： 行政経営課としては３年くらいが終期と考えるか。

事　務　局 ： 一般的には、モデル的な事業といえば長くても５年くらいだと思っている。その時点で成功事例がどれだけ集まるかというのもある。

評 価 委 員 ： このモデルというのは、事業としてモデル事業なのではなくて、企業としてモデルになるような企業・事例を作っていこうという趣旨なのではないか。そうであれば発表会をやるのもいいが、他の企業が欲しがるような中身が必要である。自主財源がいらないということは小規模企業者にとっては最高の条件のはずだが、なぜニーズがないのか。他もやりたくなるような道筋を立てていかないと、広がっていかないと思う。

事業担当課 ： 我々としてはこんなことを新分野に展開できる、新たな成長のきっかけが生まれてくるということを、市内の中小規模の事業者に広めたいと考えている。

評 価 委 員 ： 新製品開発にあたってはそれぞれに手法があるのではないか。単独で開発するということもあるかもしれないが、他の企業や大学と連携して新たな商品を開発するというケースも結構ある。それぞれのパターンをどう体系化・類型化してモデルを作っていくかという話になると１年や２年の話ではなくなる。単なるモデル事業で打ち切るのが良いのか悪いのか、そのあたりを練り直した方が良いと思う。報告会の参加者がどう感じたのかということも含めてもう一度、事業のあり方を再検討すべきである。

別表１

	当該事業	新製品開発・改良促進事業
対象者	小規模企業者（製造業）	制限なし （小規模企業者は補助率増）
テーマ	成長分野（環境・医療・福祉）	制限なし （成長分野は補助率等増）
対象経費	原材料費、部品費、機械設備費、治具費、工具費、外注加工費、システム開発経費、工業所有権導入費等	原材料費、部品費、機械設備費、治具費、工具費、外注加工費、システム開発経費、工業所有権導入費等
委託料（補助額）	委託事業（上限 100 万円）	補助事業（産学連携上限 100 万円～1,000 万円、単独企業コース上限 200 万円、企業連携コース 400 万円、既存製品改良 100 万円） （小規模企業者の特例なし）
審査会	あり	あり
成果報告会	公開	非公開

別表２

年度	事業概要
平成 27 年度	株式会社雪花 病院や介護施設向けに使用される食器の機能面と意匠面の改善 医療・介護施設においてユニバーサルデザインが取り入れられつつあるが、一般化しておらず、メーカーも限られている中で、施設運営者と利用者の双方の要望を叶える食器の開発を実施。耐久性・耐熱性・耐衝撃性と持ちやすさ・食べやすさ・見た目の良さを両立した食器を開発し、病院にて使用テストを実施。新素材使用による課題の抽出、量産化への検討、販路開拓を今後の課題として抽出。 成果報告会は非公開で実施。(当該年度は小規模事業者の技術力の底上げと産業全体の高度化が目的であったため。)
平成 28 年度	有限会社エヌテック リンパ浮腫体積簡易測定機器の研究試作 リンパ浮腫は幹部の定期的測定により治療管理を行う必要があるが、一般的にメジャーを使用しての測定が主であり、標準化や精度面での問題があるため、この解決のために３D 測定機器を用いた計測システムの開発を行う。開発は金沢大学、金沢美術工芸大学と共同して行い、当該システムのうち、患部固定用補助具の開発を担当し、測定機器（３D センサー）に写り込まず、測定を邪魔しない形状の設計から製作までを担当。プロトタイプの製作及び臨床テスト用モデルを製作。 成果発表会は公開で実施。(参加者 46 名、うち小規模 14 名) 平成 29 年度に臨床テスト用モデルの展示会出品を実施、また学会発表予定。現在、臨床テスト用モデルからのフィードバックを元に改良中。